コラム『城めぐりの楽しみ－松山城』

香取昂宏（S44 経）

日本人なら誰もが「城」や「城下町」に惹かれるのではないでしょうか。日本にはいやヨーロッパなどにも数多くの「城」はあるし、楽しめるところはいくつもあります。

今回ご紹介は“伊予松山”そう愛媛県松山市にある松山城です。松山市はなんとも身の丈にあったと言いましょうか、旅行者にとって手が届きやすい位置にいろいろなもの、すなわち文化財、史跡、遺跡、焼き物の窯元、古街道、そして温泉など歴史好きにはたまらない場所が揃っています。もっと具体的に言えば松山城、湯築城、石手寺、砥部焼の窯元、正岡子規記念館、種田山頭火、愚陀仏庵、内子の街並み、等々。

松山城は市内のど真ん中、アクセスが良い場所にあります。ロープウェーを使うと手っ取り早くて便利だが、城好きは平地にある二ノ丸裏から山上まで歩いて登ります。途中に貴重な登り石垣が見られます。

シンプルなのにトリッキーな松山城。天守と言えば城のシンボルであり、その優美さや豪壮さが特徴。しかしなかにはそんな印象とはほど遠い天守もあります。伊予松山城もその一つ。余計な装飾は一切なく、直線的で平たい屋根が特徴的。シンプルなのだが、一般的な天守の印象とはやや趣がことなります。なぜそうなのかと言えば、実は松山城が築かれた時代と関係があるのです。

加藤嘉明が慶長８年(1603)に築城した松山城は“連立式平山城”と呼ばれる形式。連立式とは、天守に二基以上の小天守・櫓がついている形のもので、また平山城とは平野の中にある山、あるいは丘陵地帯に築かれた城をさします。この両方を備えたのが“連立式平山城”なのです。

松山城は、標高 132ｍの勝山の山頂に本丸が造られ、北側の天守曲輪の四隅に天守および小天守、南隅櫓、北隅櫓が置かれて、それぞれが多門櫓や廊下などで結ばれる構造となっています。現在残っている三層３階・地下１階の大天守は、安政元年(1854)に完成したもので、全国に残る１２の現存天守の中でもっとも時代が新しい築造。ところで江戸時代、基本的には幕府は武家諸法度によって新たな築城を禁止しましたが、しかし政略上の都合で例外的に築城や改築を認めています。いずれにしても過去のように大名の威光を示すものから遠ざかっていったと考えられ、加えて西洋建築の影響もうけてシンプルな造りが流れになっていった、いわば時代の潮流の中で造られた天守です。

そしてさらに細かく言えば侵入者を欺くトリッキーな構造がたまらない。ドラゴンクエストなどのコンピューターゲームにはまった方もいらっしゃると思いますが、宝のありかに到達するには、遭遇する敵を倒し、数々の難所を潜り抜けなければならない。しかも隠し扉やワナもあり、一筋縄では攻略できません。この城の構造も同じです。城内には敵を欺くトリックが随所に仕掛けられています(それぞれの説明は紙面が足りないのが残念)。松山城

は戦術的にも考え抜かれた建築物なのであります。そして全国にある１２の現存天 守に葵の御紋が使われ、残っているのは松山城だけ。寛永 12 年(1635)に徳川家康の甥にあたる松平定行が藩主となった関係、すなわち徳川の血をひく親藩の松平氏によって普請されたことによります。それにしてもこの天守曲輪の威容は素晴らしいのです。壁面は下半分が木造の下見板張りで、上半分が城漆喰塗籠となっています。

こんな素晴らしい城を堪能するホテルは 1 か所だけ、市内を走る伊予鉄道の「西堀端駅」のすぐそばにあるホテル。この上層階からは居ながらにして二ノ丸を見下ろしてその向こうに松山城全貌がみられ、夜間のライトアップは感動的です。ベッドに寝転びながら城を眺められる位置なのです。さらにこの市電の役割をはたしている伊予鉄道は便利です。ＪＲ松山駅と松山市駅を結ぶだけでなく、道後温泉にもつながっています。そして時には有名な“坊ちゃん列車”が走ります。そう、この町は夏目漱石や正岡子規のゆかりの地でもあり、俳句が盛んな街でもあります。そして司馬遼太郎作の「坂の上の雲」の秋山兄弟の故郷でもあります。松山城内で秋山兄弟の写真やＮＨＫドラマ「坂の上の雲」の主題歌として使われた“スタンドアローン”の曲でもこのドラマは多くの人々を魅了しました。「坂の上の雲ミュージアム」これも一見の価値あり、司馬さん好きの方にとっては、いやあの当時のことを知りたい方にとっては格好の資料館です。

坊ちゃん列車に乗って道後温泉に浸かりに行く。これもいいのです。そして道後温泉本館は改修のため長らく休館していましたが、2 年ほど前に改修を終え、一度ははいっておきたい温泉なのです。温泉に浸かったあとはご当地グルメ「鯛めし」で軽〜く一献といきたいものです。道後温泉のすぐ横になんと「湯築城」があります。ここは長らく当地に勢力を張っていた河野氏の本拠地だった中世の城址です。よく整備されてビジュアル的に理解しやすくできています。一遍上人がここの河野一族だったのはご存知でしたか？

市内には近世の城「松山城」と中世の城「湯築城」があるわけで、城好きにはたまりません。松山城は、歴史的価値、美しい景観、文化財の豊富さなど、多くの魅力を持つ名城です。冒頭にも申しましたように、この松山市は手の届くところに史跡や文化施設が揃っているのです。ターゲットを絞って行ってみては如何でしょうか。